

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4271101513
法人名	社会福祉法人 真和会
事業所名	グループホーム おおくさ
所在地	〒859-0414 長崎県諫早市多良見町元釜字浮津555番地 (電話) 0957-44-1917

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目島原商工会議所1階
訪問調査日	平成20年 1月 30日
評価確定日	平成20年 3月 13日

【情報提供票より】(平成20年1月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和 <del>平成</del> 14 年 2 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9人
職員数	9人
常勤	7人
非常勤	2人
常勤換算	8.2人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	3000円・実費	
敷金	有( ) 円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 900 円			

### (4) 利用者の概要(1月7日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 86歳	最低	71歳	最高	95歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	三原台病院・風デンタルクリニック
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成14年2月に建てられた当ホームは、海岸沿いの郊外で交通量の多い道路に面しているが、自然が多く、ゆったりとした環境の中に溶け込んでいる。ホーム周囲には農家が多く、敷地内の畑は自由に出入り出来るように開放されており、地域住民が畑の手入れに来る等、交流がある。ホーム内は木の温もりがあり、居室の表示や食堂を兼ねたホール全体に木製家具が配置され、穏やかな生活空間を醸し出している。職員は穏やかな表情で日々の介護に努められており、理念の共有と共に「目配り、気配り、心配り」を掲げられている。入居者は安心した表情で生活されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	母体法人の施設が隣接しており、母体が重点的に行う行事への参加などは出来ているが、ホーム独自の地域に向けた取り組みが不十分との課題が出されていた。今年1月に地域住民宅へのチラシ配布を行い、地域との関わりを積極的に取り組む姿勢が見受けられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員で取り組み、外部評価と比べて見るなどされており、日々の介護への振り返りが実践への繋がりになっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成19年3月7日に第一回目の運営推進会議を開催しており、2ヶ月に1回開催されている。外部評価の公表や季節の施設独自の行事予定など報告され、地区住民代表や市町村担当者が毎回出席され助言などあり、会議運営や地域との関わりに活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族面会時に個別記録を見てもらうなど、情報開示と共に、日々の暮らしぶりを確認して頂いており、家族の安心感へ繋がっている。意見は、直接職員に伝えられケアプランの見直しなどに活かされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域との連携は、母体の法人施設に付随する形で行われており、事業所独自の取り組みを期待したい。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で普通に暮らす」理念を独自に掲げられ、地域との関わりと継続性を重視した取り組みがされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時に理念を唱和されている。理念以外に、(目配り、気配り、心配り)の意識付けを込めて、掲げられ、利用者への目配りを常に心掛けて、日々の介護に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区住民宅へ、今年1月にチラシを配布するなど地域交流への働きかけをされている。しかし、母体施設が地域に密着しているが、グループホーム独自の取り組みの不足を感じる。		自治会や老人会などとの交流は、隣接する母体施設の行事参加に沿って行われている。ホーム独自の取り組みに向けて、地域内の中学校と交流を図るため、体験学習を受け入れるなど、地域との接点を作られるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価のテキストを職員全員に配布し、各自で記入して持ち寄り、検討を行った。外部評価は、自己評価では見落としがちな部分の指摘を受けるため、「日々の介護の振り返り」として活用している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、平成18年度に1回開催・平成19年度は2ヶ月を目処に開催されている。市職員・民生委員・家族の代表・特養の職員・管理者の5名で構成されている。事業所報告・参加者より質問や意見を頂き、外部評価の公表など行いグループホームとしての姿勢を示されている。		

グループホーム おおくさ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議時に、担当者と顔馴染みの関係を保ち、連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月1回の請求書送付時に、不定期だが行事時のホーム便りを同封し、家族面会時は介護記録の開示などされている。又、行事の時、参加された家族に茶話会で利用者の日々の様子を知って貰う工夫がされている。預かり金については2名程度実施しておられるが、殆どの利用者の日用品は立替分として毎月報告されており、家族面会時は押印がされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を入りに設置してあるが、苦情等入っていない。要望などは直接職員に伝えられ、迅速な対応がされている。市町村にある苦情相談窓口の掲示もされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動時はホーム便りや、家族面会時に紹介するなどされており、馴染みの関係の継続に心掛けている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修に参加を促し、外部の研修参加時は出勤扱いとする等、職員への配慮があり、研修終了後は職員全体へ研修報告をし共有を図り、サービスの向上に努めている。利用者の転倒防止対策として勤務体制の変更や、薬の誤配薬防止への取り組みなど(気配り・目配り・心配り)の大切さを強調されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外での同業者との交流は、研修会の時に情報交換をするなど出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホーム利用前に繰り返し見学に来て貰い、雰囲気徐徐に馴染まれた後、本人の状況に合わせて自宅訪問を行われている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員からの一方的な働きかけではなく、個人を尊重した介護の中で、人生経験が活かされた暮らしの工夫等、相互に学びあう関係を継続している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の声かけの中で言葉に出来ない意向や思いを、表情や癖などから推測して対応されている。意思疎通が困難な利用者については家族からの情報を集め、ケアプランに活かす努力をされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の介護記録に本人のニーズや家族の要望を取り入れ、職員全体で介護計画のプロセスを重視した対応がされている。気付きなどを介護記録に活かす取り組みを自覚されており、職員全体で介護計画作成のプロセスを共有していく姿勢が見受けられる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>作成した介護計画の評価は月1回行われ、3ヶ月毎の見直しや利用者の状況変化に応じたプラン変更など行われている。見直しや変更は家族へ報告をされ、同意・捺印を得られている。</p>		

グループホーム おおくさ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 of 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族が同行出来ない病院受診や、理美容院の送迎など必要な支援は柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医療機関への受診を家族や本人が希望する際は、医師相互の連携や、家族・職員が診療情報を共有している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「終末期のあり方」については、家族と本人の意思を段階に応じて確認を取りながら、24時間対応の医療機関と連携して対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けの際など、利用者への接し方は誇りを傷つけないような対応をしている。利用者の記録類は、見えないように管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースや一日の流れの中で、なるべく本人の意向に沿った対応を心がけている。例えば本人が望む入浴時間に合わせるなど、本人のペースに合わせる生活の支援が行われている。		

グループホーム おおくさ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などは、手伝える方と職員と一緒にしており、食事も利用者と共に食べて穏やかな雰囲気である。利用者の状況に合わせて作り方を変える等、適切な対応がされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が望む時間に入浴順番を調整されている。体調の変動や入浴に拒否がある方については柔軟に対応されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や後片付け、活花など本人の意思を確認しながら個々の能力に合わせた役割をお願いしている。感謝の言葉を忘れないように心がけ、利用者が職員に対して生活の知恵などを教えてくれる事も多い。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩を兼ねて、ホームの近くの野菜の販売所(直接農家が運営している)まで、外出支援をされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	病院だった建物を利用されている為、3階建ての2階部分をホームとして利用されている。一階部分は夜間以外は施錠されていない。居室の鍵はなく、見守りで利用者の動きを把握されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の見解による基準は、特養と一体的指導で防火マニュアルに基づき、年2回(内1回は夏期の19:30より消防機関の協力の下で)合同訓練が行われている。	○	自然災害時の備蓄・グループホーム独自の消防機関へ通知する設備の充実や、地域との連携確保の取り組み、備蓄を念頭においたライフラインの確保などの更なる取り組みが期待される。

グループホーム おおくさ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問日は、職員のさりげない介助で食事量や水分摂取の把握をされていた。1ヶ月に1回は献立表を、管理栄養士にチェックして貰い、栄養バランスに注意している。一日に必要な水分量の確認や、食事摂取量に応じた高カロリー食品の摂取介助など行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事や体操などを行うホールには、落ち着いた家具を配置してある。四季の花や、季節を感じる小物や壁掛け、廊下の壁にも季節を感じさせるような工夫や、家族の訪問時見て頂けるように利用者の写真を掲示して、随所に利用者本位の工夫が窺われる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使い慣れた物を持ち込んであり、居室担当職員が利用者の了解を得て居室の清掃・整理を行い、洗面所(夜間は加湿に配慮して貯水)手拭ペーパー・温湿度計の設置等で居心地良く過ごせる居室作りへの配慮が見受けられる。		